

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：コビープリスクールつなしま	種別：認可保育所
代表者氏名：園長 鶴岡 茉莉子	定員（利用人数）：80名（79名）
所在地：横浜市港北区綱島上町91-1	
TEL：045-546-2777	
ホームページ： https://www.coby.jp/institute/tsunashima/	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年（平成29年）4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社コビーアンドアソシエイツ	
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員： 7名
専門職員	（専門職の名称） 名
	（保育士） 18名 （栄養士） 3名
	（看護師） 1名
施設・設備の概要	（居室数）保育室（9室） 厨房、事務室、園庭、バルコニー
	（設備等）トイレ、多目的トイレ、沐浴設備、シャワー、エレベーター

③理念・基本方針

■保育理念

- ・健康で明るく豊かな感性を持つ子ども
自然を活用した戸外でののびのびとした遊び、室内遊具を利用した体育遊びなどを通して、豊かな感性を育て、力いっぱい身体を使って元気で健康的に活動できる子どもを育む。
- ・のびのびと創造的に自己を表現できる子ども
大自然とのふれあいや生活、遊びを通して、疑問や探究心、創造や想像の喜びを知り、豊かな感性を表現できる子どもを育む。
- ・国際性の豊かな子ども
日本の歴史や伝統に触れる機会、異国の文化に触れる機会を通じて豊かな国際性を育む。
- ・自分から物事に意欲的に取り組み、やりとげる子ども
園生活から学んだり身につけたりしたことから、自ら物事を判断し自分から意欲的に最後までやりとげる力を持つ子どもを育てる。
- ・おおらかで思いやりがあり、“とりまく人々”を大切にする子ども
マトリクス保育を通じ、異年齢児との交流の中から『思いやり』や『優しさ』を持つ子どもを育む。

④施設・事業所の特徴的な取組

Quality Childcare and Solutionsを社是に、感動を伴う高品質な保育を目指しています。子どもの成長に子ども自身が感動でき、その感動が保護者の方々にも伝わり、さらには保育者も一緒に感動できる保育を展開してまいります。

また、発達段階別保育と異年齢児交流保育をかけあわせた独自の保育メソッド「マトリクス保育」を基軸に保育を展開しています。年長児はリーダーシップややさしさ、思いやりを育み、年少児は憧れを抱かせることで育ちを促し、生まれながらに持っている力を引き出します。

運営会社は約70年の保育の歴史と実績を持ち、全国で32施設の保育園を運営しており、膨大な経験から蓄積された安心・安全の保育を展開しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元年8月15日（契約日） ～ 令和2年4月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1) 伝統を大切にしながらも最先端の保育を実践

伝統や季節感を大切にしながらも、急速に進化する社会を背景に、21世紀型スキルや非認知能力といった「未来を生きる力」にアプローチした最先端の保育を展開しています。

日本の伝統に触れたり、季節を感じる遊びを行事として実践。本格的であることにこだわり、心に残る行事となっています。また、スポーツフェスティバル、発表会などではチャレンジの機会として子どもの成長を促すとともに、その成長を子ども自身、保護者、そして保育者で共有する機会となっています。同時に、行事への取り組みや日常生活のなかで、主体性やチャレンジ精神などを引き延ばし、未来に生きる力を育てています。

2) 「本物」との出会いによる感性を育成しています

「本物」を体験することにより子どもたちが秘めた可能性が花開くきっかけとなると考えています。お稽古ごと保育として行っているサッカー保育は、U-6の指導経験が豊富なコーチが行っています。

行事は運動会や発表会、夏の園外保育、年長児対抗のサッカー保育など、どれも本格的なものとなっています。発表会では公共のホールを借りて照明や音響を使ってステージを演出しており、感動とともに味わう大きな達成感が、子どもたちの成長につながっています。

3) 全職員が連携を密にし、全園児の育ちを支えています

「異年齢児交流保育」と「年齢別保育」を融合した保育の特性を生かし、家庭的な雰囲気の中で、全職員が日ごろから全園児と関わり、一人ひとりをよく知るよう努め、子どもに関する情報交換、共有を心掛け、それぞれの保護者とも顔なじみになっています。

職員同士のコミュニケーションもよく、クラス担任に関わらず、子ども一人ひとりに温かい態度で接しており、子どもが職員を信頼している様子がうかがえました。全職員で全園児の情報を共有しながら、子どもの育ちを支えています。

◇改善を求められる点

1) 地域との交流、子育て支援事業の強化

開園3年目となり各クラスの人数もそろい、保育が定着してきています。今後は子どもたちが地域の人たちと触れ合い、近隣設備活用での体験を通して、社会性を育てられるように保育を展開していくことが期待されます。

又、保育所は地域における育児支援の中核として、培ってきた専門性を地域に還元することも期待されています。地域の子育て親子に向けて、保育園の資源をいかした子育て支援を検討することが望まれます。

2) 保護者に向けて、子どもの園生活への理解

保護者からは子どもの保育について全体的に満足して状況がうかがえます。その一方で、保育参観・参加などで保育園内に入る機会がなく、日々の生活の様子などが分からないと保護者は認識しています。保護者へ情報提供する機会や方法などを検討して、保護者に説明・納得してもらうことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育園の運営について、日頃より法人全体や保育園全体、さらに園長や保育士など個人レベルでも自己評価や振り返りを行っていますが、今回、客観的な見地から評価いただき、大変参考になりました。

課題として挙げられた地域との交流については、開園から3年目ということもあり、少しずつ地域との関係を構築している中で、今後も交流を促進していきたいと考えています。また、保護者の方への子どもの園生活の理解促進については、12ページフルカラーの写真を多用し、動画もご覧いただけるARを導入した園だよりや、スポーツフェスティバルなど保護者にご参加いただく行事、保護者さまとのリラックスした雰囲気での交流の場を設けて伝えてまいりましたが、他にも分かりやすい機会を作れるよう検討してまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり